

# 福津市教育委員会 令和4年度研究報告書

## 研究成果（概要）

学力向上のための基盤づくりとして、家庭学習の充実を図ることを目的に効果的な実施方法の研究と検証を行った。これまでの全員に一律に同じ課題を課す宿題から、実践校で試行した週単位で学習計画を立案し、実践する家庭学習へと取り組み方を転換したことは、一定の効果を確認することができた。実践化に際して行った家庭学習の内容の整理、デジタルツールの活用、児童による対話活動が効果につながったと考えている。

## 1. 研究課題と調査・取組内容

### (1) 具体的な研究課題

児童が自分事として家庭学習を捉え、主体者として取り組むことができる効果的な家庭学習の在り方、内容、方法を「個別最適な学び」の視点から明らかにする。

#### 【家庭学習に係る現状】

- 児童は「させられる」課題として、家庭学習の意義や効果を実感できていない児童が多く、家庭学習の取組状況に差が見られる。また、課題が出されなければ学習しない、どうしてよいか分からないという児童が一定数みられる。
- 教師は、一律に同じ課題を出したり、「宿題をすること」を求めたりするなど、「宿題」を慣行として続けている傾向がある。家庭学習の効果について検討したり、学習指導と関連づけて位置づけたりすることは少ない。

#### 【課題解決の方向性】

- 家庭学習の意義や必要性を、児童、教師、保護者の視点からとらえ直すための取組について検討・実施し、効果検証を行う。
- 学習者の視点から、「自己選択・自己決定」を取り入れた家庭学習の在り方、内容、方法を検討実施し、効果検証を行う。

### (2) 研究課題に基づいて実施した調査・取組内容

#### ① 学習の自分事化を進めるための家庭学習の内容の整理

まず、一律一斉の宿題から、個に応じ、一人一人がコントロールすることができる家庭学習へと教職員の捉え方の転換を図るため、教職員の家庭学習に対する理解の整理を行った。

学習内容を大きく日常の学習指導と連動した「授業課題」、児童一人一人の学習状況に応じた「個別課題」、個々の関心に基づいた「探究課題」に分類することで、ドリルや漢字練習を作業的に行う宿題との違いを明確に

キーワードは、自己選択・自己決定			
<p>(例)</p> <p>前週のふり返しと翌週の学習予定を週単位で立案</p> <p>毎日の実績とふり返しを記述</p> <p>家庭学習の記録</p> <p>家庭学習版スタディログ※</p>	<p>子ども自身が課題を選択し、決定しながら、見直し・美観し・評価することが出来る。</p> <p>自分の伸びや努力の成果を、実感することが出来る。</p>	授業課題	<p>予習</p> <p>子どもが内容や範囲を選択、設定</p> <p>※ 探究課題につながる</p> <p>内容、範囲を教師が設定</p> <p>・「問い」「分からないこと」などを見つけることを目的とする予習</p> <p>・自分の分り具合を知るための復習</p> <p>・全員がやっているという前提には立たない</p>
		個別課題	<p>復習</p> <p>内容、範囲を教師が設定</p> <p>子どもが内容や範囲を選択、設定</p> <p>・教師のおすすめも効果的</p> <p>※ 個別課題につながる</p>
		探究課題	<p>必要課題を教師が設定して、示す</p> <p>・課題の設定、提示は個別に行う。</p> <p>・設定した課題は、子どもが課題の内容や量を自己選択することができるようにする。</p> <p>※ 個別課題は「あなたにおすすめ」のようなニュアンス 子どもが選択できるように</p>
			<p>教科等の学習で、関心があることについて発展的に探究する</p> <p>・表現したものを共有する場と機会を設定し、他者と影響を与え合うことができるようにする。</p> <p>・随時、評価をし、活動を促進する。</p>
			<p>自分が関心をもっていることについて自由に探究する</p>

した。

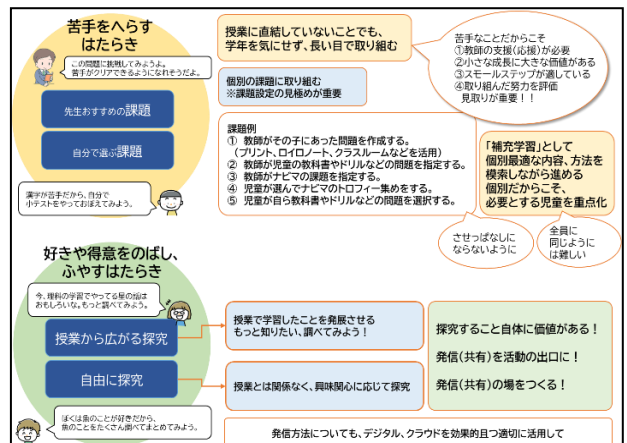
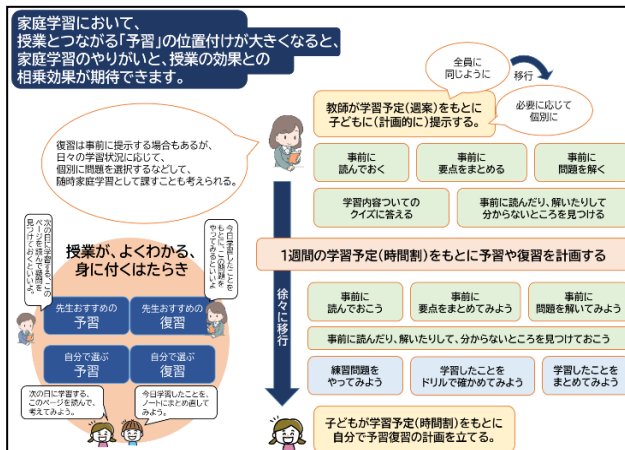
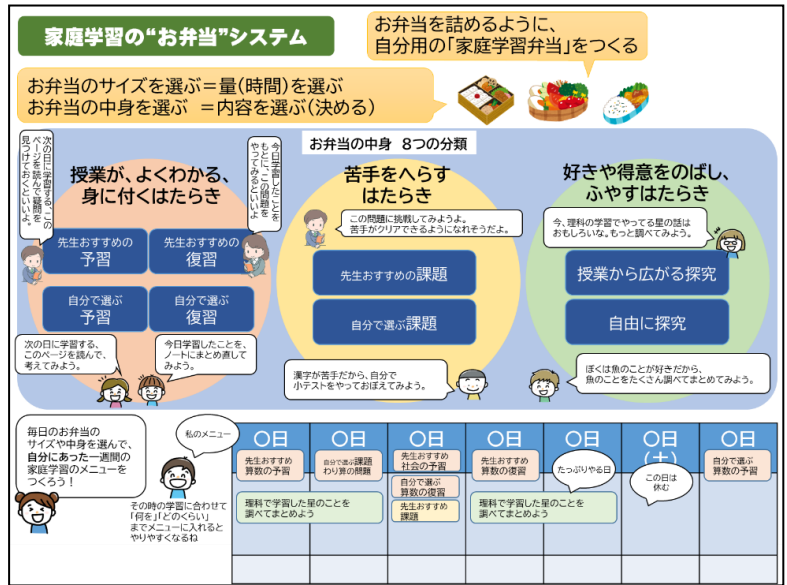
さらに、この考え方にに基づき、子ども自身が家庭学習を“与えられるもの”、“こなすもの”としてとらえることなく、家庭学習の意義をとらえることができるようにするために、「家庭学習のお弁当システム」として児童と共有し、家庭学習のとらえ直しを行った。

〈意義を意識する工夫〉

家庭学習の「はたらき」として、学習内容を分類することで、効果を意識して、計画を立てることができるようにする。

〈自己決定による自分事化〉

サイズと中身の2つの視点で、子どもが自ら考え、選択・決定することができるようにする。



② 蓄積・共有の機能を生かしたデジタルツールの活用

学習計画の立案、記録に関しては、5年生においてGoogle スプレッドシート、3年生ではロイノートを活用して学習計画・記録を行った。

5年生が活用したGoogle スプレッドシートでは、自身のふり返りとともに、教師からの個別の働きかけが行いやすくなることから、家庭学習への具体的なサポートとともに、教師と児童との関係づくりにおいても有効なツールとなった。

月	日	曜日	予定	メニュー1	メニュー2	メニュー3	今日のふり返り	先生のコメント
1	水		今日は明日忙しいから明日の、自学もやる	漢字ノートランダムで選ぶ	自学明日の分までやる内容お金の歴史	ケイド5の2回めをやる	今日はテストがたくさんありましたが自信は少ししかないけど頑張った😊	しっかり復習しておく、とける問題でしたね。
2	木		今日はとてもおもしろいから自学をがんばります	漢字ノート覚えていないところをやる	できない	ケイド12の1回めをやる	とても今日は園工で色を使い分けて嬉しかったです😊	色のぬり方が上手になってきたね。
3	金		今日で宿題終わらすもして土日ゆっくりする	漢字ノート苦手なことをやる	世界のことに関して学習する	ケイド12の2回めをやる週末課題	今日は清書を書くときに少し緊張をして、あまり上手にかけませんでしたので緊張しない方法を教えて下さい	これしかないと思うと緊張しますね。その緊張感は大切です。緊張は、練習や経験がその機会をやりわけてくれます。緊張に負けたくないという意志をすれば、それが自信になって緊張が少しやわらくなるかもしれません。どんなアスリートも緊張はするですよ。だからみんな練習をがんばるのじゃないかな。
4	土		友達と遊ぶ日でも遊ぶ前にサッカーの自主練習しておく				今日はサッカーで先生のアドバイスを聞いて1点決めることができましたありがとうございますー	やったー! そのシュート見たかったなー。
5	日							
6	月		今日は少し忙しいいつもどおりやろう	漢字テストの学習明日に向けて	けいど13番1回目をやる振り返り	自学ノートお金の歴史についてのページ	最近ではスプレッドシートで詳しく書くことが多くなった課題などの面でスムーズに終わるようになったあとWi-Fiのことでお兄ちゃんの脳にはとても正確に思いの切ったままに正直に言えませんでしたすみません	それだけ、今までよりも自分のための家庭学習ができるようになってきたのかもしれない。しっかりこのスプレッドシートを活用できるようになってきたね。Wi-Fiのことは、そうだったのですね。電磁波など元気な人はそれほど影響はわかりませんが、お兄ちゃんにとっては大変な影響があったのかもしれない。気づかずにごめんさいね。家みんなでお兄ちゃんのことを思って協力していたのですね。あらたくさん家族はほめてくれる家族ですね。

月	日	曜日	予定	メニュー1	メニュー2	メニュー3	今日のふり返り	先生のコメント
7		水		漢字ノート 「比」熟語の意味・例文	計算ドリル ②二回目	自主学習(40分) 12月6日分の算数	今日は、学力テストがありました。3時間もありませんでしたが、一番自信があるのが「国語」です。そして、一番自信がないのは「算数」です。明日解説があるので、とても緊張します。	がんばったね。明日は解説をしますので、苦手なところをこくふくしよう。
8		木			計算ドリル ③三回目 ④一回目 ⑤一回目	自主学習 やなせ たかし漢字・言葉 読む 教科書復習 プリント	今日は、算数が1・2時間目と2時間ありました。1時間目が終わったあと、「次も、算数かー」と少し疲れがみえましたが、ありましたか1時間目になったことなので、復習する時間を省けて時間に余裕を持っていたので良かったです。 ちなみに、休んでいた分の国語ってしますか？(ロイノートの「やなせたかしについて」っていうのです！)	算数は難しかったけど、よくがんばりました。みんなで勉強すると楽しいね。むずかしかったけど、がんばったね。」
9		金	国語 やなせたかし 社会 工業 テスト	予想問題	計算ドリル ⑥一回目 ⑦一回目 ⑧一回目 ⑨一回目	自主学習 割合復習(1) 過去課題 (言葉の力P1~5)	今日は、クラブ活動がありました。クラブ活動では、松ぼっくりリースを作りました。思っていたようにできなかったけれど、とても楽しかったです。	ステキなソリヤーができたでしょうね。見たかったな。
10		土						
11		日						
12		月	学力テスト 計2二回目終わる①	50問テスト(15分)	計算ドリル(50分) ⑩三回目 ⑪二回目 ⑫二回目	自主学習(30分) 割合復習(2)	今日は、学力テストがありました。国語と外国語は全て満点でしたが、算数が4問も書けませんでした。次回には書き直します。	ごころから時間内に終わらせる練習をしておくことが大切です。
13		火			計算ドリル ⑬二回目 ⑭二回目 ⑮二回目	自主学習 割合復習(3)	今日は、外国語の話すテストがありました。前話せるように練習していたのに、緊張で全然話せませんでした。とても悔しいです。	せっかく学んだことはしっかり使えるようになりたいね。
14		水	注射	主張と根拠を書く	計算ドリル ⑯一回目 ⑰二回目	自主学習 表を使って考えよう ~復習~	今日は、注射を3つ打ちました。9歳(日本脳炎)の注射と11歳(二種混合)の注射とインフルエンザの予防接種をしました。痛かったけど、もう自分注射はないので嬉しいです。	大変でしたね。いっぺんに3種類の注射がうてるのですね。いたかったでしょう。がんばったね。
15		木		自主学習 50問テストに向けて アルファベット	計算ドリル ⑱二回目	自主学習 ふり子の動き 一まとめ	今日は、園でワイヤーアートをしました。最初はサンの帽子を作ろうとしましたが、赤のワイヤーが足りずとらあしずらうと思ったらしいものができて良かったです。	2学期最後の園で、いいものが作れてよかったね。

1週間ごとに、週の時間割を参考にしながら自分の家庭学習計画を立案している。毎日の家庭学習後、今日のふり返りの欄に学習についてのふり返りを記入している。教師は、計画の内容から家庭学習の状況を把握するとともに、教師からのコメントとして、取組を賞賛したり、助言を加えたりしている。

3年生はロイロノートを活用し、週ごとの目標と、具体的な学習内容を一目で見渡すことができるようにした。学習内容については、子ども自身が選択するものと、教師が提示するものとに分けて位置づけることで、児童の発達の段階に応じて、段階的に自分の学習をコントロールする力を育成することも意図した。

**今週、自分が進む方向 (〇〇だったから△△する、〇〇のために△△する)**

**コンパスが上手にかけられるようになりたいからたくさん問題をとく**  
**コンパスがうまくかけられるようになるためにたくさん問題をとく**

おつぶの点数:漢字 100点 算数 90点 来週は	漢⑦~⑩テスト	円と球テスト			
月	火	水	木	金	土 日
漢字③	おつぶ漢字④	漢字⑤	おつぶ円と球漢字⑥	漢字⑦	
・漢字ノート〇 ・自学算数〇 ・ちょっと算数〇	・漢字ノート〇 ・自学国語〇 ・ちょっと算数〇	・漢字ノート〇 ・自学理科〇 ・ちょっと算数〇	・漢字ノート〇 ・自学社会〇 ・自学音楽〇 ・ちょっと算数〇	・漢字ノート〇 ・自学音楽〇 ・ちょっと算数〇	・漢字ノート〇 ・自学〇
先生が出す	ローマ字テスト、やり直し〇 漢字③やり直し〇	ローマ字テスト、やり直し〇 漢字④やり直し〇	ローマ字テスト、やり直し〇 漢字⑤やり直し〇	ローマ字テスト、やり直し〇 漢字⑥やり直し〇	ローマ字テスト、やり直し〇 漢字⑦やり直し〇

**振り返り (感想、うまくいった、いかなかった、次どうしたい、何を变える?)**

楽しいです。今回は、めあてどりにできたので、良かったです。  
 次は、今週の漢字テストを、全部100点を取ろうと思います。  
 自分で決めるほうが、自分にあったものや、苦手なものができるから私は、自分でするほうがいいです。

### ③ 対話を通して家庭学習について考える

これまでに述べた取組の基盤として、家庭学習の意義について子ども自身が考えることができる場を設定した。5年生を対象に、対話を通して家庭学習の意義について考えることから、どのような家庭学習にしていきたいかという当事者意識を高めることへつなげた。

これまで与えられるもの、しなければならぬものとして受動的に取り組んできた子どもたちが、自ら問いを立てて対話することで、自分にとっての家庭学習の意味や価値、自分が家庭学習にどう取り組みたいかという構えを見つめ直すことができた。

みんなで決めた問い
なぜ宿題をしなければいけないのか
対話する前のあなたの考え
家でできる自分なりの学習をするため みんな同じ量の学習をする必要はない
対話したあとのあなたの考え
人それぞれが思う学習の仕方を全員でするのは難しいけれど、自分で考えて学習をして、一人ひとりのベストな学習をしていきたい。
対話の中でひびいた言葉
全員が同じ内容、量をする必要はない

## 2. 効果検証内容・結果

### (1) 効果検証のための指標

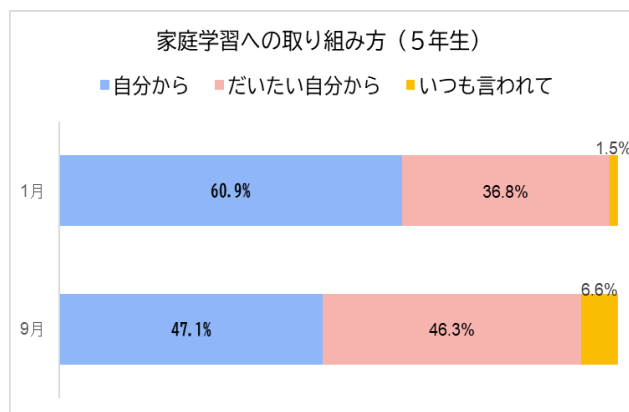
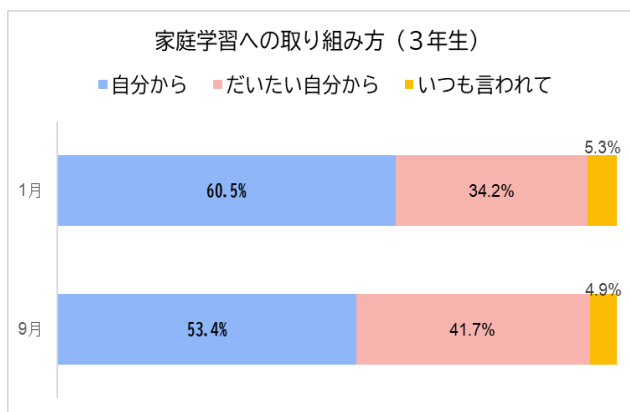
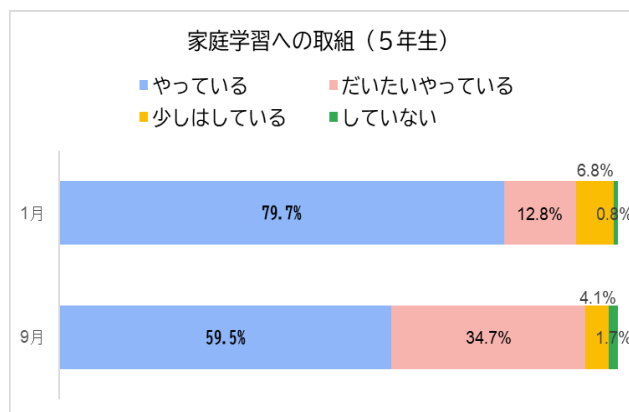
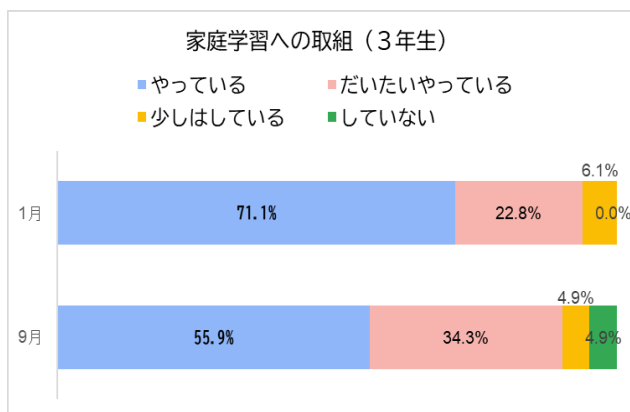
No.	検証のための指標	実施主体	具体的な検証内容
1	児童、教師へのアンケート調査の結果	福津市教育委員会 (実践校)	家庭学習を中心とした学習への取り組み方に関する自己認識
2	標準学力テスト (東京書籍株式会社)	福津市教育委員会 (実践校)	資質・能力のうち、特に「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」の状況を検証する。
3	総合質問紙調査 (東京書籍株式会社)	福津市教育委員会 (実践校)	資質・能力のうち、特に「学びに向かう力・人間性等」の状況を検証する。

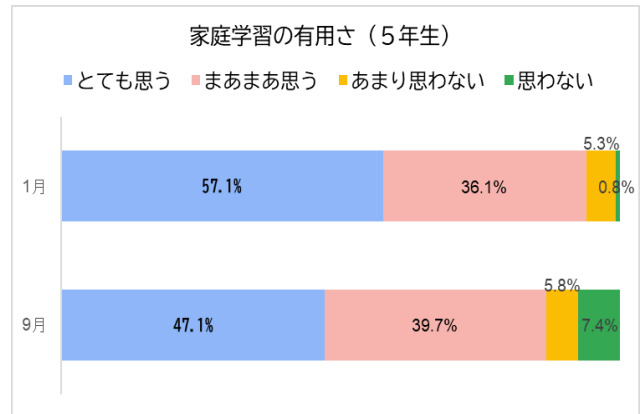
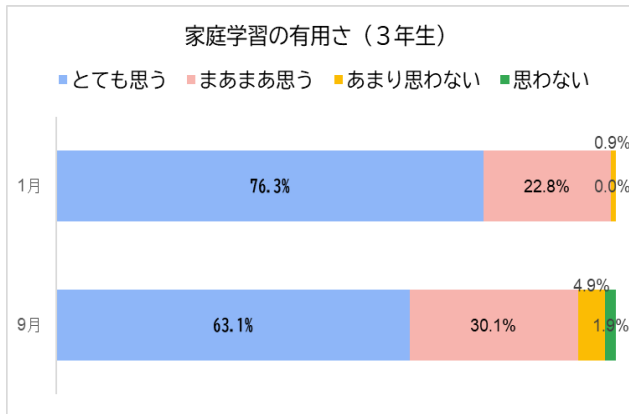
### (2) 指標に関するデータの取得方法（時期、回数等）

	検証のための指標	データ取得の時期、回数等
1	児童、教師アンケート結果	令和4年9月 令和5年1月
2	東京書籍株式会社の学力調査の正答率	令和5年1月 取組実施校及び比較対象校の児童に対して学力検査を実施する。
3	東京書籍株式会社の総合質問紙調査の結果 また、2の学力調査と関連分析を行う。	令和5年1月 取組実施校及び比較対象校の児童に対して調査を実施する。

## 3. 考察（指標に関するデータの分析結果、本調査研究における取組の有効性等）

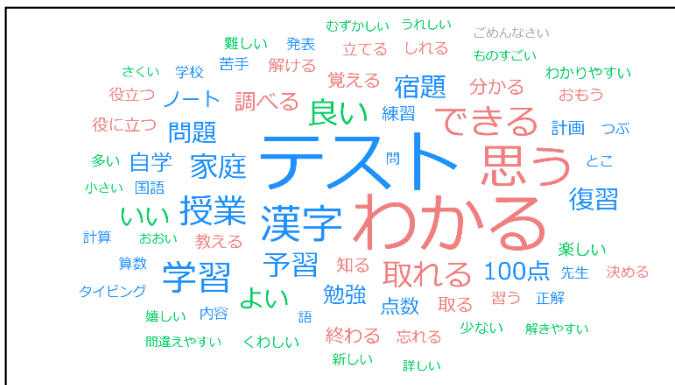
### ① 児童へのアンケート調査



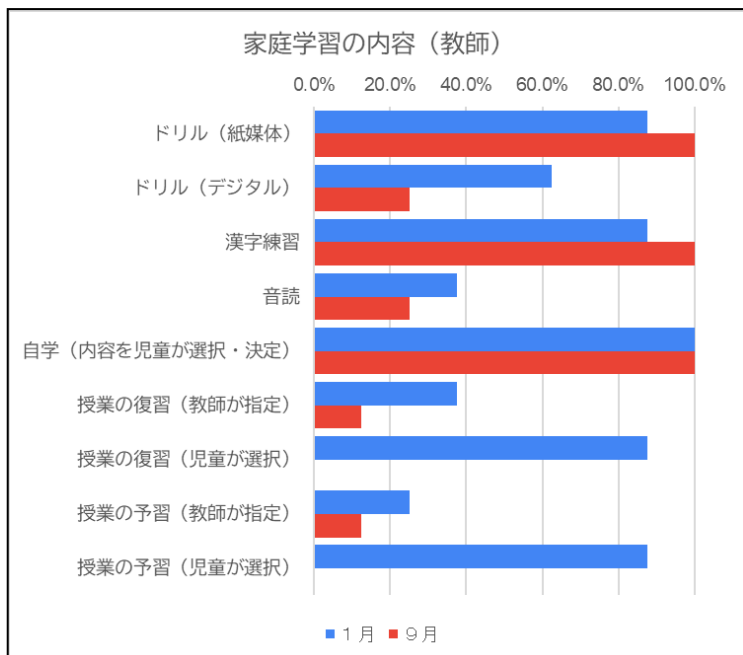


#### 対児童調査（アンケート）

- 「家庭学習への取組」について、取り組んでいると回答した児童が3年生、5年生ともに増加している。特に、積極的に取り組んでいると回答している児童の割合が増えて（3年生で7割、5年生で8割）おり、家庭学習の習慣化が進んだと言える。
- 「家庭学習への取り組み方」について、3年生5年生ともに「自分から」取り組み児童が増加し、6割の児童が自分から家庭学習に取り組んでいると回答している。
- 「家庭学習の有用さ」について、3年生5年生ともに有用さを感じる児童の割合が増加している。
- 下図は、「家庭学習が役に立つと思うのはどんなときか」という問いに対する記述をテキストマイニングしたものである。「わかる」「できる」などの言葉に表れているように、授業や授業に関連したテストなどで、家庭学習で取り組んだことが身についたことを実感することができている。これは、授業やテストなどと関連付けて家庭学習を計画し、実践してきたことによる効果と考えられる。



#### 教師のアンケート調査



左のグラフは、教師が家庭学習の内容として位置づけているものである。

「自学」についての位置づけは変わらないが、一律にドリルや漢字練習を課すことが少なくなっている。

特に大きく変化したのは、授業と連動させた家庭学習を意図的に位置づけるようになったことである。授業の予習や復習を、教師から指定することで、家庭学習と学校の授業との関係性を意識できるようにしている。そのことが、児童が自ら自分の学習の状況に応じて、予習や復習を自ら選択して実施しようとするにつながっている。

② 標準学力テスト及び総合質問紙調査（東京書籍）

3 散布図 【学力調査（受検教科平均正答率）】 × 【学習習慣・意欲】

5年〇組



正答率と学習習慣を視点に、児童の学習状況を整理すると、家庭学習の取組状況と一定の相関が見られた。このことから、日常的な家庭学習の取組状況を、学習指導の評価と連動させることが、家庭学習と学習指導（授業）の効果を相互作用的に高めることにつながると期待できる。

4. 成果と課題

- 一律一斉に課してきた家庭学習の内容を、児童の視点から整理し直したことで、家庭学習の意義を教師自身がとらえ直し、これまで漫然と継続してきた「宿題」の在り方を見直すことにつながった。
- 児童が自ら内容や量を選択し、当事者意識を持って家庭学習に取り組むことができるための仕組みとして「家庭学習のお弁当システム」を作成した。  
「お弁当システム」の運用により、児童が自分にあった内容や量を選択することが習慣化してきた。それによって、家庭学習に対する当事者意識、有用感が高まるとともに、児童の創意工夫が生かされた多様な学習が見られるようになってきた。
- Googleスプレッドシート、ロイロノートなどを活用し、クラウド上で、児童による家庭学習の計画とふり返り、教師による指導や支援を行うことで、より個に応じた柔軟な家庭学習の運用を図ることができた。
- まだ、家庭学習は家庭学習、授業は授業と別のものとしてとらえ、家庭学習は「繰り返しの補充学習」という認識を拭いきれないところがある。家庭学習の一連の学習としてとらえ直し、学校での学習指導（授業）と家庭学習とのつながりを一層明確にすることで、児童の視点から学習指導（授業）をとらえなおし、「授業観」の転換を図っていく。特に、アサインメントとして、教師が時宜や子どもの実態に応じて課題を提示することについて、十分に実践化できていないので、さらに実践かを図っていく。
- 家庭学習の考え方と取り組み方を、すべての学級の一貫性と統一性を持って実践化していくことが必要である。そのためには、「お弁当システム」を基盤としながら、その運用方法として、デジタルツールの活用を含め、家庭学習における「学ぶ力」の高まりを整理し、個に応じた柔軟な教師の関わり方について、共通理解し、共同実践化していく。

- 家庭学習と学校での授業とをシームレスにつないでいく上で、クラウドの活用は不可欠である。デジタルツールの日常的な活用をさらに積極的に進め、運用の効率化を図り、効果を高めていく必要がある。児童並びに教師のデジタルツール活用のリテラシーを高めていくとともに、過剰な運用上の制限を取り払い、活用の幅を広げることも、学力向上の基盤づくりにつながるものと考ええる。

## 5. 今年度の研究経過

月	内容
5月	福津市学力向上推進協議会の設置 第1回意見交流会の実施 学力向上のための基盤づくり調査研究第1回連絡協議会
6月	第2回意見交流会の実施
8月	アンケート調査
9月	文部科学省実地調査
10月	第3回意見交流会の実施
12月	第4回意見交流会の実施
1月	取組実践校における新たな児童主体の家庭学習に関するアンケート調査 学力調査、総合質問紙調査実施
2月	アンケート調査分析 学力向上のための基盤づくり調査研究事業成果報告会

## 6. 研究関係者

### (1) 学力向上推進協議会構成メンバー

所属	氏名
福津市教育委員会	山根 和宏
福津市立津屋崎小学校	木庭 竜之助
福津市立津屋崎小学校	田代 直美
津屋崎ランチ LLP	山口 覚
津屋崎中学校区	西田 明日香

### (2) その他関係者

所属	氏名
福津市立福間小学校	有馬 昌一郎
福津市立福間南小学校	原尻 敏広
福津市立津屋崎小学校	川口 佐恵子
福津市立津屋崎小学校	田中 喬之
福津市立津屋崎中学校区	西田 明日香
福津市立津屋崎小学校	秦 和彦
福津市立津屋崎小学校	田川 るみ